



欄に数値またはコメントを記入

<b>1. 建物概要</b>			
建物名称	学校法人相川学園 静岡高等学校本校新築工事	BEE	1.3 BEEランク B+ ★★★

2. 重点項目への取組み度			
重点項目	得点*/満点	取組み度	評価
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	3.6 /5		ふつつ
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	3.8 /5		ふつつ
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	3.2 /5		ふつつ
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	2.4 /5		がんばろう
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例	
		よい 4 点以上	ふつつ 3 点以上
			がんばろう 3 点未満

3. 重点項目についての環境配慮概要		内訳対応項目		
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。				
<b>"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)</b>		得点	<b>3.6</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数)                     <ul style="list-style-type: none"> <li>④劣化軽減対策等級3として耐用年数に考慮した。</li> <li>④各部材についてライフサイクルコストを考慮し、目標使用年数や残存期間に応じた材料、工法を考慮したうえで、仕上、設備の各々における高耐久性について留意した。</li> </ul> </li> <li>■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上)                     <ul style="list-style-type: none"> <li>⑤ 生物環境の保全と創出</li> <li>⑥ 敷地内温熱環境の向上</li> </ul> </li> <li>■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用)                     <ul style="list-style-type: none"> <li>⑦建物外皮の熱負荷抑制に配慮し、BPI<sub>m</sub>=0.67とした。</li> <li>⑨LED照明など高効率な設備機器を採用してエネルギー消費の削減を図っている。</li> </ul> </li> <li>■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避)                     <ul style="list-style-type: none"> <li>⑪大便器に節水コマ、自動水栓を採用し上水の使用量を抑制した。</li> <li>⑬化学物質排出把握管理促進法の対象物質を含有しない建材を積極的に利用した。</li> <li>⑬耐火間仕切りに発泡材を用いず、ハロン・フロン使用しない仕様とした。</li> </ul> </li> <li>■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善)                     <ul style="list-style-type: none"> <li>⑭LCCO<sub>2</sub>の排出率を参照値に対して89%とし地球温暖化抑制へ配慮した。</li> <li>⑮ 温熱環境悪化の改善</li> </ul> </li> </ul>	Q-1 2 2.1 2.1.2 ① Q-1 3 3.1 3.1.3 ② 3.2 3.2.1 ③ Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 2.2.2 ④ 2.2.3 ④ 2.2.4 ④ 2.2.5 ④ 2.2.6 ④ Q-3 1 ⑤ 3 3.2 ⑥ LR-1 1 ⑦ 2 ⑧ 3 ⑨ 4 4.1 ⑩ 4.2 ⑩ LR-2 1 1.1 ⑪ 1.2 1.2.1 ⑪ 1.2.2 ⑪ 2 2.1 2.1.1 ⑫ 2.1.2 ⑫ 2.1.3 ⑫ 2.1.4 ⑫ 2.1.5 ⑫ 2.1.6 ⑫ 3 3.1 ⑬ 3.2 3.2.1 ⑬ 3.2.2 ⑬ 3.2.3 ⑬ LR-3 1 ⑭ 2 2.2 ⑮	① 外皮性能 ② 昼光利用設備 ③ 昼光制御 ④ 躯体材料の耐用年数 ④ 外壁仕上げ材の補修必要間隔 ④ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 ④ 空調換気ダクトの更新必要間隔 ④ 空調・給排水配管の更新必要間隔 ④ 主要設備機器の更新必要間隔 ⑤ 生物環境の保全と創出 ⑥ 敷地内温熱環境の向上 ⑦ 建物外皮の熱負荷抑制 ⑧ 自然エネルギー利用 ⑨ 設備システムの高効率化 ⑩ モニタリング ⑩ 運用管理体制 ⑪ 節水 ⑪ 雨水利用システム導入の有無 ⑪ 雑排水等利用システム導入の有無 ⑫ 材料使用量の削減 ⑫ 既存建築躯体等の継続使用 ⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用 ⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材 ⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み ⑬ 有害物質を含まない材料の使用 ⑬ 消火剤 ⑬ 断熱材 ⑬ 冷媒 ⑭ 地球温暖化への配慮 ⑮ 温熱環境悪化の改善		
	<b>"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)</b>		得点	<b>3.8</b>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>■サージ性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性)                     <ul style="list-style-type: none"> <li>⑯Z=1.2 I=1.25として1.5倍の耐震性能を確保した。</li> <li>⑰設備機器・配管等は耐震クラスAとして、地震災害に対して留意した。</li> </ul> </li> </ul>	Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯ 2.1.2 ⑯ 2.4 2.4.1 ⑰ 2.4.2 ⑰ 2.4.3 ⑰ 2.4.4 ⑰ 2.4.5 ⑰	⑯ 耐震性 ⑯ 免震・制振性能 ⑰ 空調・換気設備 ⑰ 給排水・衛生設備 ⑰ 電気設備 ⑰ 機械・配管支持方法 ⑰ 通信・情報設備	
		<b>"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)</b>		得点
	<ul style="list-style-type: none"> <li>■サージ性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり)                     <ul style="list-style-type: none"> <li>⑲階高を4.0m、壁長さ比率0.2としてゆとりのある設計とした。</li> </ul> </li> <li>■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮)</li> </ul>	Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱⑲ 3 3.1 3.1.1 ⑲ 3.1.2 ⑲ Q-3 3 3.1 ⑳	⑱⑲ ユニバーサルデザイン計画 ⑲ 階高のゆとり ⑲ 空間の形状・自由度 ㉑ 地域性への配慮、快適性の向上	
<b>"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)</b>		得点	<b>2.4</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>■室外環境(敷地内)対策 (㉒生物環境の保全と創出/㉓まちなみ・景観への配慮/㉔敷地内温熱環境の向上)</li> <li>■敷地外環境対策 (㉕温熱環境悪化の改善)</li> </ul>	Q-3 1 ② 2 ② 3 3.2 ⑥ LR-3 2 2.2 ⑮	② 生物環境の保全と創出 ② まちなみ景観への配慮 ⑥ 敷地内温熱環境の向上 ⑮ 温熱環境悪化の改善		

# CASBEE® - 建築(新築)

## 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 ■使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	学校法人相川学園 静清高等学校本館	階数	地上2F
建設地	静岡県藤枝市潮87番地の一部 他23	構造	S造
用途地域	準工業地域 防火地区指定なし	平均居住人員	925 人
地域区分	7地域	年間使用時間	2,150 時間/年(想定値)
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年2月 予定	評価の実施日	2021年3月10日
敷地面積	62,722 m <sup>2</sup>	作成者	増田 洋一
建築面積	2,648 m <sup>2</sup>	確認日	
延床面積	5,276 m <sup>2</sup>	確認者	



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.3**

★ ★ ★ ★ ★ A ★ ★ ★ ★ ★ B+ ★ ★ ★ ★ ★ B- ★ ★ ★ ★ ★ C ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%  
②建築物の取組み 88%  
③上記+②以外のオンサイト手法 88%  
④上記+オフサイト手法 88%

46 (kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q 環境品質 Qのスコア = 2.9**

**Q1 室内環境 Q1のスコア = 3.2**

**Q2 サービス性能 Q2のスコア = 3.9**

**Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 1.7**

**LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.5**

**LR1 エネルギー LR1のスコア = 3.6**

**LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 3.5**

**LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.3**

3 設計上の配慮事項		
<b>総合</b> これはCASBEE静岡2016年版による評価結果である。 建築物の環境負荷については、高性能な外皮を採用して環境負荷の低減に取り組んでいる。		<b>その他</b> 特になし
<b>Q1 室内環境</b> 全館を禁煙とし内装材には化学汚染物質の少ない材料を使用し、快適な空間となるよう努めている。	<b>Q2 サービス性能</b> 空間にゆとりを持たせることによって、機能的で使いやすい空間とするとともに将来の変化にも対応できるよう配慮している。また、仕上材に耐久性の高いものを採用し、更新必要間隔を長期化させた。	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 外部仕上等の色彩において、周辺の街並みや風景にバランスよく調和させている。
<b>LR1 エネルギー</b> 断熱性の高い材料を採用し、熱負荷抑制に配慮している。また、LED照明など高効率な設備機器を採用してエネルギーの削減を図っている。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> 有害物質を含まない材料の使用に努めるなどして環境への悪影響の低減を図っている。また、地球温暖化係数の小さな断熱材を採用して、地球環境に配慮している。	<b>LR3 敷地外環境</b> 地球温暖化対策や大気汚染防止に努めて、環境負荷の低減に取り組んでいる。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される  
 ■LCCO<sub>2</sub>の算定条件等については、「LCCO<sub>2</sub>算定条件シート」を参照されたい